

滋賀の文化情報誌
デュエット
Duet

2026 秋 vol.157

特集

彦根城博物館 開館40周年

私の出版体験

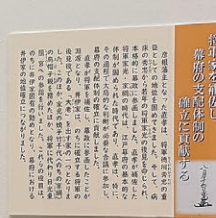
『**今が青春** 私の八十路越え』

INFORMATION STATION 催し案内 2026 秋

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内

特集 彦根城博物館 開館40周年



井伊直孝



市制50周年を記念して昭和62年(1987)2月に開館した彦根城博物館が、今年度、開館40周年を迎えました。改めて開館までの経緯と本館の特色、今年度を通して催されるさまざまな記念イベントについてうかがいました。

展示室にて。右は井伊家2代直孝が用いたと伝わる「朱漆塗 燐韋威縫延腰取二枚胴具足」、左は「御城内御絵図」



彦根城博物館

住 所	彦根市金亀町1-1
連絡先	TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520
休 館 日	12月25日～31日(その他臨時休館あり)
入 館 料	博物館単券：一般700円、小中学生350円 (展覧会によって料金は異なります) 展示替え時：一般420円、小中学生210円 彦根城・彦根城博物館・玄宮園セット券：一般1500円、小中学生550円
駐 車 場	近隣の市営駐車場等
アクセス	JR琵琶湖線「彦根駅」(西口)から徒歩15分

何度来ていただいても違うものに会える、 違う発見があるはずです。

彦根藩の政庁「表御殿」を忠実に復元した建物

——今年度、彦根城博物館は40周年ということで、まず、彦根城博物館の開館時までの経緯からお話いただけますか。

中橋 当館の場所には、江戸時代、彦根藩の政庁である表御殿^{おもてごてん}という建物がありました。彦根藩の政務をおこなう政庁と藩主の住まいを兼ねた大きな建物です。それが明治6年（1873）に出された、いわゆる廃城令にともなう取り壊されてしまったのですが、およそ100年たった昭和50年代に、表御殿の建物を復元して、資料を保存・展示する博物館としての機能も果たせようという計画が立案され、その準備に着手しました。

手しました。

ただ、その場所も、「彦根城跡」として国の特別史跡に指定されているエリア（中堀の内側と埋木舎^{うめのもや}※1）にあたります。特別史跡というのは、わかりやすく言うと、史跡の国宝という位置づけで、全国でも60件ほどしかありません。そうした特殊なエリアなので、復元にあたっては、史料に基づいた正確性が求められました。文化庁や県教育委員会とも協議しながら進められたそうです。

幸い、表御殿に関する平面の絵図や、「起し絵」と呼ばれる紙で作った立体絵図、古写真などが豊富に残っていたので、木造棟についても忠実に復元することができました。

——博物館の機能をもつ建物として、鉄筋コンクリートの部分もあるわけですね。

中橋 本来は木造で全部復元をしないといけないところですが、井伊家に伝来してきた資料を展示するという条件で、展示エリアについては、外観は江戸時代の木造建築様式でありながら、内部構造はRC（鉄筋コンクリート）で建てられています。

それ以外の、藩主のプライベートな空間にあたるエリアについては木造で復元をすることで、文化庁から許可が出ました。これが特別史跡に建物を復元する、日本最初の例になりました。平城宮跡（奈良県）で朱雀門^{すざくもん}などが復元された例がありますが、当館はその先駆けとなります。

——1階建てなので、館の正面入口から見

※1 埋木舎 井伊家第13代当主となる井伊直弼が青年期を過ごした屋敷。
るとわかりませんが、空中写真（5ページ参照）で見ると奥へと棟が連なっていてとても広いのですね。

中橋 平面図（5ページ）でいうと、入口に近い南側が「表」と呼ばれた彦根藩の政庁、北側が「奥向」と呼ばれた藩主の住まいでした。後者は家臣でも限られた者しか入ることができなかった場所です。

復元された木造棟のうち、「天光室^{てんこうしつ}」は茶室で、井伊直弼もここで茶会を何度も催しました。「御座之御間^{ござのごま}」は藩主の居間で、庭園を眺めることができます。「御亭^{ごてい}」も藩主がくつろぐための建物で、表御殿の中で唯一2階建てになっています。さらに奥の「局^ご」は藩主の世話をする女性たちが暮らした場所です。

——40年前の開館時には、こうしたかたちの博物館というのは非常に珍しかったわけですね。



彦根城博物館 学芸史料課

柴崎謙信さん

しばさき・けんしん／1994年、広島県生まれ。



彦根城博物館 管理課

中橋優斗さん

なかはし・ゆうと／2000年、滋賀県生まれ。



彦根城博物館の木造棟にある「御亭」

柴崎 おそらく珍しかったのではないかと思います。それ以前、表御殿が取り壊された跡は更地さらちになっており、大正時代には公衆グラウンドとして利用されました。

戦後も、市民の憩いひらの場になっていた場所なので、開館前をご存じで、数十年ぶりに彦根を訪れた方などは、「まさかここにこんな博物館が建っているとは思わなかった」と驚かれます。

——建設前には、いったん発掘作業をなさったのですか。

柴崎 はい。昭和58年（1983）から始められた発掘調査では、建物の遺構や庭園にあった池の跡などが検出されました。その調査結果に基づいて建物の柱の位置なども忠実に復元されています。表御殿解体後に建物が増えてられなかったのが幸いして、遺構はほぼ完全な形で確認されました。

中橋 先ほど表御殿は廃城令で取り壊され

すべて館所蔵の本物なので館内撮影もOK

——その江戸時代を感じさせる建物の中で井伊家に伝わった文化財が公開されているわけですね。

柴崎 当時、井伊家の第16代当主であり、彦根市長であった井伊直愛なおよし氏が、所蔵する美術工芸品などを市に寄託かよし（のちに寄贈）なさったことが、博物館を建てる契機の一つにもなっています。井伊市長は、彦根の歴史そのものである井伊家伝来の品々を市民共有の財産として役立ててほしいと願って市に寄託したので、それらを展示する場として博物館が建てられました。

——そうした経緯も、博物館の成り立ちとしては全国的にも珍しいのはいませんか。

中橋 国の特別史跡である大坂城跡に建っている現在の大坂城天守閣は、昭和6年（1931）に大阪市民の寄付によって再

たという話をしましたが、中央にあった能舞台だけは、佐和山の麓にある井伊神社に移築されて、それが昭和25年（1950）に護国神社の境内に移されました。そして、博物館建設にもなつて、もとの場所に戻ってきました。

発掘調査では、能舞台があった下に漆喰しっくいの枅はしらが見つかりました。能舞台の下には通常は甕かめを埋めて音を増幅させる共鳴装置にしますが、このものは能舞台と同じ面積の非常に大規模なものでした。現在、その遺構は埋め戻して保存されており、その上に新たに枅を設けて使用しています。

この能舞台は表御殿の建物のうち、江戸時代から唯一現存する建物であり、かつ日本日本の城郭の中で現存する唯一の能舞台でもあります。彦根城が世界遺産になったら、構成資産のうちの一つに入るのは間違いないでしょう。

建され、内部は歴史博物館になっています。平成9年（1997）には、「国土の歴史的景観に寄与している」という理由で国指定登録有形文化財になりましたが、外部を忠実に復元したものではありません。

公立の博物館で、井伊家という一つの名にスポットを当てて収蔵・展示している博物館は、全国的に見ても珍しいのではないかと思います。

柴崎 大名家に伝来した大名道具は一般に明治以降手放したり、災害に遭つたりと散逸の歴史でした。その中でも井伊家伝来の大名道具はよく残った事例だと思っています。

国宝の「彦根屏風びやうぶ」をはじめ、江戸幕府の政治や彦根藩の藩政のことがわかる「彦根藩井伊家文書」は、重要文化財にも指定されています。

↓彦根城博物館の中央にある能舞台



※2 井伊直愛（1910～1993）井伊家第16代当主。1953年から連続9期彦根市長を務める。水産学者でもあった。

——柴崎さんは何がお専門のですか。

柴崎 私は古文書が専門です。「彦根藩井伊家文書」にふくまれ、現在展示中の「侍中由緒帳」は、彦根藩士の各家の由緒と経歴をまとめたもので、江戸時代を通じてずっと追加しながら編纂へんさんされました。これだけまとまったものは全国的にも珍しいのではないかと思います。

——長浜城歴史博物館は、湖北地域の歴史・文化を扱うテーマの幅がありますが、彦根城博物館は本当に大名文化に絞っておられる印象があります。

柴崎 ただし、展覧会では、地域の歴史や美術もテーマとして取り上げています。

中橋 名古屋市にある徳川美術館や福岡県柳川市にある立花家史料館※4のように私立の博物館での例はありますが、公立で一つの名家にスポットを当てている博物館は、



彦根城博物館周辺の空中写真（Google マップに文字を追加）

珍しいかもしれません。

彦根のように、江戸時代を通して井伊家が支配し、史料がまとまってその地域に残っているというのは、あまりないことなんです。江戸時代は普通に転封などがあったので、史料が別の地に移されたり、近代以降に都部の大学の図書館に保存されたり、あるいは散逸してしまったものがほとんどです。例えば旧薩摩藩主の島津家に伝わった「島津家文書」（国宝）も、東京大学史料編纂所の所蔵になっています。

彦根の場合、国替えもなく江戸時代を通

- ※3 徳川美術館 1935年、尾張徳川家19代当主徳川義親により創立。公益財団法人徳川黎明会が運営。
- ※4 立花家史料館 立花家の別邸を用いた料理旅館「御花」の庭園内に、1951年、御花歴史資料館として創立。公益財団法人立花財団が運営。

して治めた井伊家が、明治以降もなるべく流出させずに代々受け継いでこられたので。
——立地の点はどうでしょうか。彦根城天守のすぐそばにあることは、来館者数や来館者層に影響していますか。

中橋 一般に博物館への来館者は、高齢の方が多くイメージがありますが、当館は、彦根城内にありますので、老若男女問わず、子どもから高齢の方までに来館いただいているように思います。

近畿圏、東海など、車で来ることができ
るエリアの方が多い印象です。

——最近海外からもいらっしゃいますか。
中橋 はい。いわゆるインバウンドの欧米からの観光客の来館も増えています。

城に関する博物館や資料館でも、城自体から離れた場所に立地する館もあるなかで、立地条件という意味では、お城に登って、

その歴史を知ろうと思っていただけるよい場所であると思うのですが、正直な話、彦根城天守へ登られる観覧者のうち、博物館にも入館いただけるのは2割前後なんです。券売所のところで、「お城は行きたいね。でも、博物館は大丈夫かな」と判断なさる方が8割ということです。来館いただいた方は、「思ったよりも広かった」、「立派な展示品がたくさんあった」、「庭がとてもきれいだった」というような高評価をいただいています。

ですから、まずはどんな理由であれ、入館いただく契機になるものを考えることが、一番課題になっています。

——そんなに少ないというのは驚きです。

柴崎 学芸員の立場から申し上げますと、当館は基本的には本物を展示しているという点と、常設展示でも、実はすべて1か月か



彦根城博物館の平面図

ら2か月で展示品を替えている点は、稀有な特色だと思っています。

例えば同じジャンルの品の中での変更、刀剣だったら刀剣で、別の作品に替えるという形なので、大きく様変わりするわけではないため、気づかない方もいらっしゃるかもしれません。

——その交換は、本物だからこそであるわけですね。

柴崎 そうなんです。文化財保護の観点から、展示期間は1か月、あるいは2か月に限っています。ですから、何度来ていただいても違うものに会える、違う発見があるはずです。しかも、すべて本物を見ていただけます。

これは、私が初めて当館へ来た時に一番印象に残った点でもあります。

中橋 「すべて本物」に関連する当館の特徴として、館内展示の撮影がすべてOK（フラッシュと三脚は不可）というのもあります。他館等からお借りした作品を展示する展覧会を除き、ほぼすべて当館所蔵だから可能なことなのですが、あまり周知できていないようなので、この場を借りてお知らせいたします。

展示品、例えば甲冑の横に並んで記念撮影をしていただいたり、それをSNSにアップしていただくこともOKです。どんな発信をお願いします。

——撮影可というのは、私も知りませんでした。

中橋 「本物」という点でいうと、木造棟と能舞台の貸し館もやっています。お茶会などに「ご使用いただければ、本当に昔のお殿さまがいた部屋で、お殿さまが見た景色を眺めるといった体験もしていただけます」とくに能舞台は、能・狂言に限らず、仕舞や謡、笛の演奏など、さまざまなジャン

※5 仕舞

能の略式演奏の一つ。面も装束もつけず、紋服・袴で、謡だけを伴奏に能の一部分を舞うもの。

※6

井伊直忠（1881ー1947）井伊家第15代当主。東京の本邸にも能舞台を設けた能好き。1944年、彦根城を彦根市に寄贈。

ルの伝統芸能の発表会等でもご利用いただいています。

貸し出すにあたっての条件があり、どんなジャンルでもというわけにはいきませんので、当館サイトの「貸館利用案内」をご覧ください。

——それは、愛好者にとってはとても魅力的ですね。

中橋 そうなんです。江戸時代の、しかも大名家の能舞台に立つというのは、なかなかよそではできない体験だと思っています。

柴崎 井伊直弼の孫にあたる第15代当主・井伊直忠は、能に熱心だった方で、井伊神社の奉納能でもご自身が舞っておられる姿が写真にも残っています。

井伊家には能面・能装束も伝わっていたのですが、ほとんど関東大震災で焼失してしまったので、現在の当館の能道具コレクションはその後、直忠が収集したり、新たに作らせたものです。中には旧大名家の優品も含まれています。

他にも井伊家ではコレクターとして、

推しグランプリの結果と刀剣人気

——それでは、40周年記念関係の催しについてのお話に移りますか。

中橋 「館蔵品☆推し☆グランプリ」と題して、ノミネートされた品からWEBと来館者に投票していただきました。

第1回は「王道ベスト編」で当館らしさのあるもの50作品、第2回は「知られざる

館内展示の撮影可。写真は「ぬいぐるみお泊まり会 with ひこにゃん」にて（彦根城博物館提供、8ページ参照）



江戸時代の第12代当主・直亮が有名で、笙や箏などの雅楽器をはじめ、刀剣や時計、茶道具、ベルギー製の洋式ピストルや国友一貫斎作の反射望遠鏡も購入していました。国宝彦根屏風も直亮が収集したものです。

名（迷）品編」で普段ほとんど展示する機会のない作品から学芸員のおすすめ30作品をノミネートしました。第1回は3月1日〜4月15日に投票、第2回は5月1日〜6月15日に投票がおこなわれ、その結果をもとに令和8年度の展覧会や常設展示の中で展示しています。

「王道ベスト編」については、総合トップ10（テン）の作品と、各分野ごと、武器・武具、能面・能装束、調度、楽器、湖東焼茶道具、書画、古文書。分野ごととは各トップ3の作品を展示します。

各トップ10ならびに各分野ごとのトップ3の作品は展示期間をホームページで公開しておりますので、一部、展示期間が終了したのもありますが、ぜひご覧ください。「知られざる名（迷）品編」はトップ15で、7月24日から9月14日まで展示します。

——意外な品などはありませんか。

中橋 「王道ベスト編」のトップ3は王道だなと感じました。1位が2代・直孝の甲冑（2ページ参照）。2位が初代・直政の甲冑。3位が「銘国宗（伯耆）」の太刀でした。4位は少し意外なところで弥千代の鎧道具の一つとして展示している駕籠。5位が有名な長曾祢虎徹の銘がある脇差。6位もとても意外なのですが鎌倉時代に作られた琵琶でした。

柴崎 この琵琶は意外でした。この作品は作者もわかる貴重な作品です。

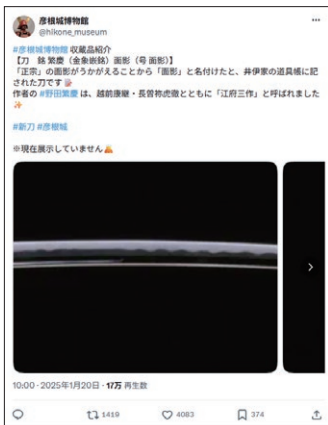
中橋 「知られざる名（迷）品編」の1位は直亮が購入したと伝わる「鉄地梵字打出五枚胴具足」という甲冑です。

——時代劇なら悪役が着ていそうですね。

中橋 2位が「銘武田晴信作」の短刀で、



↑鉄地梵字打出五枚胴具足
（彦根城博物館蔵）



↑多くの反響があったXの投稿

この晴信は武田信玄のことだと伝わっています。やはり、こちらも武器・武具系が人気があります。3位にちよつと変わったものとして鳩杖が入りました。8代・直定の50歳を祝って、90歳になった乳母が献上した杖で、頭にハトの姿が彫られています。

——昔はそういう習慣があったのですね。

まったく知りませんでした。検索すると今も通販でプレゼント用に売られています。

柴崎 今年度の開館40周年記念展覧会「シリーズTHE DAIMYO」は、これらランキング上位のものをふくめ、当館の所蔵品の中でも、特に当館らしいものをメインに年間を通して展示させていただきます。

第4回テーマ展「井伊家歴代の指料」——選ばれた名刀の姿——（7月24日～9月14日）では、先ほどの王道ベストで3位に選ばれた「太刀 銘国宗（伯耆）」を展示します。この太刀は、12代直亮の指料でした。本展では、歴代当主の刀12口や当主が用いたとされる拵を、「御代々御指料帳」などの関係資料とともに展示します。

——「推しグラブリ」でも上位に刀剣が入ったのは、女性人気によるものですか。

中橋 平成30年（2018）の特別展「長曾祢虎徹―新刀随一の匠―」開催時には、かなりの女性客がいっぱいきました。ただ、単純に刀を展示したら女性が来るかと

※7 長曾祢虎徹（？～1678）江戸時代の刀工。出生は近江国長曾根村（彦根市長曾根町）とする説と越前国とする説がある。

※8 弥千代（1846～1927）井伊直弼の二女。13歳で高松藩の松平頼聡に嫁いたが、桜田門外の変後に離縁。婚礼道具と鎧道具が井伊家に戻った。

※9 指料 腰に差して用いた刀。

※10 小竜景光（生没年不詳）鎌倉時代の刀工。備前国（岡山県）で活動。

いうと、そうでもありません。

日本刀を擬人化したキャラクターを戦わせる「刀剣乱舞」というパソコンゲームコンテンツ（2015年配信開始）が女性人気の源です。そのキャラクターの一人が長曾祢虎徹なのですが、今のところ当館が所蔵している刀剣で、『刀剣乱舞』のキャラクターになっているものはありません。

ちなみに、キャラクターになっている小竜景光の太刀を12代直亮が入手したことがありましたが、13代直弼の代に、元の持ち主の山田家に返却されました。現在、東京国立博物館が所蔵し、国宝に指定されています。

脱線しましたが、当館所蔵の刀が『刀剣乱舞』に登場してくればなと期待します。刀剣関係でいうと、当館の収蔵品の一つとして「銘繁慶 金象嵌銘 面影」という刀をXで紹介したところ反響がありました。「面影」という名前のついた刀は何口かあった、当館のものもそのうちの一口です。『刀剣乱舞』のゲームに登場する刀（キャラクター）とは直接関係ないのですが、当館の発信を見て4000くらい「いいね」がもらえて、当館がSNSを開設して以来、初めての大バズリでした。

——やっぱりそういうことがあるんですね。

中橋 実際に展示した際にも再度発信したところ、「また彦根の「面影」を見に行き

たい」とつぶやいている方もあったので、誘客にもつなげられる面はあります。

——そういう意外な品が注目を集めたことは他にもありますか。

中橋 先日、能装束を学芸史料課の広報担当がつぶやいたのにも反応がありましたね。柴崎 知名度はなくても、写真を見てき

「ぬい活」とトレカ大会も開催

いだと感ずるものは、反応があります。ただ、広報担当がいいなと思って上げたものが、たまたま皆さんの関心にはまらなかった場合、あまり反応がないこともあります。

——他には、こういった催しを計画なさっていますか。

中橋 まだプレスリリースなどもしない(取材時)のですが、7月1日から7月12日にかけて、「ぬいぐるみお泊まり会」の募集をして、8月3日から9日にかけて実施します。

この「ぬいぐるみお泊まり会」というのはなんぞやということですが、イメージがつきますか。

柴崎 いわゆる「ぬい活」をなさる方が対象です。

——ぬいぐるみを連れて飲食店などに行く、「ぬい活」があるのは知っています。

中橋 もともとは、図書館のイベントで、

子どもたちがお気に入りのぬいぐるみといっしょに本の読み聞かせを聞いたり、ぬいぐるみが本を読んでいる様子を写真撮影して、子どもたちにその本を読んでもらうよう働きかける取り組みがあったんです。

誘客にも有効だろうと、令和6年(2024)11月に東京国立近代美術館が「ぬいぐるみお泊り会」を企画し、募集をかけたところ、定員20体のところに約3000件の応募があるという、すごい人気でした。この大成功を受けて、全国各地の博物館・美術館でも開催されています。関西だと京都・大阪の博物館・美術館で、

滋賀県内では、近江八幡市立図書館がやっておられて、博物館としては当館が初のはずです。

ただ、単純に館でぬいぐるみを預かって、見学するようすを館内で写真撮影するだけでは、他館と差別化できないので、「ぬいぐるみお泊り会」≠「ひこにゃん」と題して、ひこにゃんのぬいぐるみをアテンド役に館内を探索するかたちとしました。8月1日、2日にぬいぐるみを持ってきてもらって、9日に持ち主の方へぬいぐるみを返却して、館内をぬいぐるみと一緒に見学してもらう計画です。

——彦根城博物館さんは、お堅いイメージがありました。が、かなり、誘客に向けた催しに本気ですね。

中橋 9月に参加者募集を開始し、10月に開催する「ひこにゃんトレカ(トレーディングカード)大会」もあります。会場は、木造棟を予定していますので、お殿様気分も味わっていただけます。

——カードバトルは人気がありますね。

中橋 「ひこにゃんトレカ」が、ミュージアムショップでは人気の商品です。1個の単価はそんなに高くありませんが、販売数で見ると圧倒的によく売れています。ひこにゃん誕生20周年を記念した全20種入りの「ましましパック」という商品も発売されました。

実際のところコレクションが目的か、バトルするために買っておられるのかわかりませんが、幅広い年代の方が買われています。恥ずかしながら、私たちも遊び方をよくわかっていないので、これから勉強するところですよ。

——本日はお忙しいところ、興味深いお話をありがとうございました。

(2026・6・11)



↑「ぬいぐるみお泊まり会 with ひこにゃん」の様子
(8月3～9日開催、彦根城博物館提供)

『今が青春 わたしの八十路越え』

著者 にしむらよしひろ
西村吉弘さん 〈滋賀県蒲生郡日野町在住〉

プロフィール

1942年、日野町生まれ。1960～1996年、滋賀銀行に勤務。1996～2006年、滋賀デューシーカードに勤務。2014～2022年、日野町教育委員会委員。現在、日野まちなみ保全会会長、一般社団法人近江日野商人島崎の家代表理事。



著書を手にとる著者

思い切って「インタビュー形式」に、これなら「いける」

この自叙伝を書き始めたのは、2025年の9月からでした。子どもらの家族と、そのご縁の方々への心ばかりの贈り物としてです。最初は常体（である体）で書き始めましたが、2万字余り書き進んだところで、何となく「固いなあ」「理屈っぽいなあ」と、行き詰まりを感じるようになりました。

そこで、途中から思い切って、「問い」に話し言葉で答えるように書いてみると、書きやすく話題の展開もすんなりいって、これなら「いける」と思い、年が明けてから、一気に全部を「インタビュー形式」に書き改めました。

一番印象に残ったのは、恩師や先祖についての取材

執筆中での印象深い出来事の一

つは、小学校時代にお世話になった恩師についての記述に間違いがないか確認するために、その恩師のご子息に、面談や手紙で、やり取りをさせていただいたことです。時間は要しましたが、記述内容も確かなものになり、対応いただいた方との意思疎通が図れ、有意義であつたと思っています。ほかに、私の先祖が昔、店を開いていた関東の地の教育委員会の方のお世話になって、貴重な資料を頂戴したうえに、その地を訪ねることができたことも、印象に残ることでした。

生きた時代を懐かしく
思い出すきっかけに

仕上がった本は、1か月半ほどをかけて、直接手渡しや郵送で、お世話になった方々や知り合いの方々にお届けしました。何しろ書

籍の出版は自分にとっては初めての経験でしたから、多くの方々から、電話やメール、手紙などで「ひとこと」をいただいたのははじめ、さまざまな形でお気持ちを寄せてくださって、正直なところびっくりしました。近隣はもとより、中には他府県からも、わざわざ私の自宅までお越しただいて、感想などをお聞かせいただいた方もおられました。

そして、ほとんどの方が「読みやすかった」とおっしゃいました。学校時代の先生のお名前が出てくる箇所など、「私もその先生に習った」と、その時代を懐かしく思い出して話されます。

それぞれの方の思いや体験などで重なり合うところがあると、そこで「共鳴」しあえる、そのような関係の深まりが生まれたことを実感しました。

／ 献本した方々の体験とも「共鳴」しあえたと実感 ／

近江に築かれた秀吉が関係した城について、発掘調査で出土した資料や写真やパネルで紹介します。

入館料：大人660円、大学生400円

休館日：月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）

■企画展関連講座

「秀吉・秀長兄弟と長浜」

9月5日(土) 13:30～15:00

講師：福井智英氏（長浜城歴史博物館）

会場：2階セミナールーム 定員：120名（当日受付・先着順） 参加費：500円（資料代）

お問い合わせ先：TEL 0748 (46) 2424

企画展

秀吉、秀長と天下を支えた近江衆

—長浜ゆかりの武將と奉行—

開催中～9月27日(日)

長浜城歴史博物館



片桐且元像（部分、慈光院蔵）

大河ドラマ「豊臣兄弟！」と長浜市内で開催中の「北近江豊臣博覧会」に合わせ、当館では「豊臣兄弟！」の主人公である豊臣秀長と、その兄で初代・長浜城主である豊臣秀吉を中心に、二人を支えた石田三成や片桐且元、宮部継潤、小堀正次ら“近江衆”とも呼ばれる長浜ゆかりの武將や奉行たちをさまざまな資料を通じて紹介します。

料金：大人1000円、小中学生200円

休館日：月曜日（ただし、祝日の9月21日(月)は開館）

■担当学芸員によるギャラリートーク

「秀長に仕えた近江衆」

9月5日(土) 13:30～15:00

会場：地階研修室（事前申込不要）

参加費：要入館料

お問い合わせ先：TEL 0749 (63) 4611

企画展

「風味・風土・風景」感じる駅弁

—鉄道の町・まいばらと井筒屋—

開催中～9月13日(日)

伊吹山文化資料館



指定された井筒屋資料（米原市蔵）

昨年2月末に米原駅での駅弁販売を終了した「井筒屋」から米原市に寄贈された駅弁関連資料が市指定文化財になりました。

駅弁の掛け紙（包装用紙）や調理器具、立ち売りの販売用具、お茶を入れた汽車土瓶など、「鉄道の町まいばら」を象徴する資料を展示します。

入館料：一般200円、小中学生100円

休館日：月曜日・祝日の翌日

お問い合わせ先：TEL 0749 (58) 0252

第72回企画展

秀吉の城

開催中～9月23日(水・祝)

滋賀県立安土城考古博物館



水口岡山城跡出土 揚羽蝶文鬼瓦

（甲賀市教育委員会蔵）

羽柴（豊臣）秀吉は、近江で初めて城主となり、織田家の後継者争いに勝利して天下人となってからも近江を重要視し、家臣たちにも城を築かせています。本展では、

テーマ展

井伊家歴代の指料

—選ばれた名刀の姿—

開催中～9月14日(月)

彦根城博物館

武士の魂とも言われる刀剣は、大名道具の筆頭とされ、井伊家でも数多くの名刀が収集・所蔵されました。本展では、伝来刀剣のうち、歴代当主の指料に注目し、拵や関連の古文書などとともに一堂に展覽します。当主それぞれが選出した名刀の姿をご覧ください。



太刀 銘国宗（伯耆）（12代直亮指料、当館蔵）

テーマ展

姫君の婚礼調度

9月18日(金)～10月19日(月)

彦根城博物館



黒漆塗八丁字紋時絵駕籠（当館蔵）

江戸時代、大名家の婚礼は家の威信をかけてとりわけ華やかに行われ、大揃いの婚礼調度が用意されました。

本展では、井伊家伝来の華麗な婚礼調度を一堂に展示します。

入館料：一般700円、小中学生350円

会期中の休館日：9月10日(木)

お問い合わせ先：TEL 0749 (22) 6100



七本槍慕情 桐一葉の夢

ようの
丁野永正 著
四六判上製本 総312頁 頒価1500円
問合先 東近江市建部瓦屋寺町134-25 (著者)
賤ヶ岳の合戦で七本槍の一人として活躍した片桐且元は、政務・外交の面でも実績を残した。裏切り者と忠義者の両方の評価を受け、且元の生涯を描いた小説。(2026.6.10刊)

うれしいご縁をいただいて

石原ひさ子 著
A 5判並製本 総222頁 非売品
問合先 守山市矢島町75 090-8577-3759(著者)
愛知川上流の山村(東近江市黄和田町)に生まれ、奨学金で高校・大学に進学し、小学校の先生に。縁あって聞光寺(守山市)に嫁ぎ、坊主となった著者が振り返る。(2026.7.3刊)

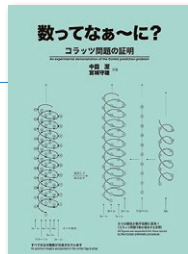


今が青春 わたしの八十路越え

西村吉弘 著
A 5判並製本 総210頁 非売品
問合先 蒲生郡日野町大窪634 (著者)
日野商人だった先祖のこと、記憶にある祖母、両親、生い立ち、銀行員時代、現在、会長を務める日野まちなみ保全会の活動などをインタビュー形式でまとめた自分史。(2026.6.15刊)

数ってなあ〜に？ コラッツ問題の証明

中田 潔・宮城守雄 著
A 4判並製本 総64頁 非売品
問合先 富山県富山市住友町15-3 (中田潔)
判別式を用いてすべての整数を6つのグループに分類、図示することで、コラッツ問題の証明への手がかりを考察。(2026.7.7刊)



無料講座

地域の歴史をまとめよう

9月26日(土) 13:00~15:00 (講演90分、質疑応答30分)

講師：市川秀之氏(滋賀県立大学人間文化学部教授)

会場：自費出版ライブラリー考耕行
(ヴォーリスみらいビレッジ図書館)

料金：無料 定員：30名(予約制・先着順)
申込み：右のQRコードから申込み



「地域の歴史を知りたい」「地域の歴史をまとめてみたい」けれど、どうしたらよいの？
学生たちと各地の民俗調査にもたずさわってこられた市川教授に地域の歴史との向き合い方についてお話しいただきます。

主催：NPO 法人日本自費出版ネットワーク
お問合せ先：サンライズ出版 TEL.0749 (22) 0627

関連企画展 地域とつながる本 —暮らす土地のはなし—

9月4日(金)~ 11月27日(金)

会場：自費出版ライブラリー考耕行
入館料：無料(金曜・土曜以外は要予約)

コツコツとひとりで調べ上げた本、地域のみんなで作った本など、地域のことを綴った本を展示します。まだ知らない地域の魅力に触れてみませんか？

※原則として予約が必要ですが、金・土は「オープンデー」として、ご予約なしで自由にご来館いただけます。

お問合せ先：サンライズ出版 TEL.0749 (22) 0627

BOOKS 図書館巡回展

わたしのまちの自費出版

9月3日(木)~ 30日(水)

長浜市立長浜図書館(さざなみタウン内)

開館時間：10:00~20:00 休館日：火曜・9/24(木)

長浜・米原にお住まいの著者の自費出版物を展示します。あわせて第28回日本自費出版文化賞の受賞作品も展示しています。

※手に取ってお読みいただけます。館の所蔵図書のみ貸し出し可能です。

講演会&座談会

私の本のまとめ方 こっそり教える取材・執筆のコツ
9月27日(日) 10:00~11:30 (講演40分、座談会40分)

講師：西 岳人氏「み〜なびわ湖から」「さざなみ通信」ライター、「北近江の巨樹を見に行く」著者

会場：長浜まちづくりセンター1階工作室(さざなみタウン内)

料金：無料 定員：20名(先着順)

お問合せ先：長浜市立長浜図書館
TEL.0749 (63) 2122

申込み：電話か右のQRコードから



文学作品展示即売会 文学フリマ大阪14

9月13日(日) 12:00~17:00

会場●インテックス大阪2号館

サンライズ出版のブース番号【い-32】

文学フリマ大阪13のようす➡

入場
無料



第34回企画展示 博物館はタイムマシン —魚類学者がみた琵琶湖—

開催中~ 11月23日(月・祝)
滋賀県立琵琶湖博物館



オランダのナチュラリス生物多様性センターに所蔵されているシーボルトが持ち帰ったトキ(図左)をはじめ貴重な標本を多数展示

琵琶湖の魚は、古くから世界中の研究者を魅了してきました。国内外の博物館には、約200年前にシーボルトが集めた標本をはじめ、新種記載の基となった貴重なコレクションが残されています。

琵琶湖に棲む生きものたちが、どのように変化してきたかを標本をもとに展示します。水族企画展示「シーボルトの江戸参府と日本の淡水魚」も同時開催。

料金：大人340円、大学生270円、小中学生170円

※上記料金+常設展示の観覧料金がかかります。

休館日：月曜日、9月1日(火)~4日(金)

※祝日・休日と9月21日、10月12日、11月23日は開館

お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811

淡海文庫78

近江の天保一揆

検地の中止を勝ち取った農民たち

苗村和正 著

B6判並製本 総124頁 1650円(税込)

野洲に生まれ、その研究をライフワークとしてきた著者が、天保一揆当日の動きとその地域的・思想的背景、野洲川沿いに残る関連史跡を紹介。



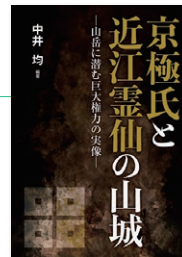
京極氏と近江靈仙の山城

山岳に潜む巨大権力の実像

中井 均 編著

A5判並製本 総128頁 2640円(税込)

上平寺城、八講師城、鎌刃城、男鬼入谷城など、従来あまり語られなかった戦国後期の京極氏と靈仙の山城に関する最新研究成果が一冊に。



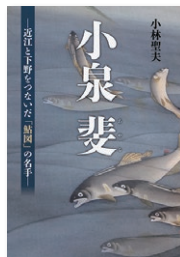
小泉斐

近江と下野をつないだ「鮎図」の名手

小林聖夫 著

A5判上製本 総130頁 1980円(税込)

「鮎図」の名手として知られる絵師・小泉斐の生涯と作品を手掛かりに、北関東に進出した近江商人による近江と下野の交流の跡を探る。



既刊寺報『月々聞法』抄

詩歌と俳句と埋め草から

弘照山 浄満寺 著

A5判並製本 総78頁 非売品

同合先 蒲生郡竜王町田中266(浄満寺)

浄満寺が門信徒に毎月配布している寺報に掲載した住職の詩作、月々の季節にマッチした詩歌や俳句を収録。(2026.7.20刊)



アンケートのお願い

Duet をより良い情報誌にしていけるために、ぜひ皆さまの率直なご意見・ご感想をお聞かせください。



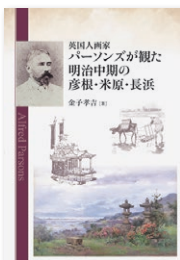
インターネットでDuetが楽しみたいだけです

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>英国人画家パーソンズが観た
明治中期の彦根・米原・長浜

金子孝吉 著

A5判並製本 総324頁 4400円(税込)

パーソンズの紀行文『ノーツ・イン・ジャパン』の文章とスケッチ、水彩画を読み解き、当時の湖東・湖北の風俗や表現の背景を考察。



北近江を醸す

水の恵みに感謝

家鴨あひる・矢島絢子 文/辻村耕司・浅井千穂 写真

A5判並製本 総160頁 3300円(税込)

こだわりの酒・醤油を生み出す醸造業や和楽器弦の産地として知られる長浜市木之本町の、風土に育まれた文化と活動を紹介。



なぜ石田三成は関ヶ原で戦ったのか

じゅしょういん れいはいにつかん
妙心寺寿 聖院「霊牌日鑑」異聞

佐賀郁朗 著

四六判並製本 総200頁 2200円(税込)

石田三成研究に取り組む著者が、知られざる資料を随所で用い、三成の長男の晩年の回想という小説形式で、関ヶ原の合戦の真実に迫る。



小川の辺

野に咲く花の水彩画集

中川善雄 画

B5判並製本 総74頁 2420円(税込)

90歳の著者が、自宅の庭や近所の神社の参道沿いで見つけた草花67種の水彩画を収録した画集。和名と簡単な解説に花言葉を添えた。



表紙写真 彦根城博物館 庭園

編集後記 諸般の事情により、夏号が遅れ、秋号としての発行となりました。表紙の庭園は初夏のようすです。彦根城博物館ではXへの投稿の反響のお話もうかがいました。ちょうど私がお盆休みに家族3人でいった大阪くらしの今昔館の企画展「写すからはじまる創造 一大阪画壇・五井金水の粉本一」(6月27日～8月31日)も、展示された「餅の餅つき図」をXで見た娘(成人済み)のリクエストによるものでした。こちらも展示作品の撮影OKで、スマホで撮った作品の一部を拡大して小さな文字を読むこともできました。㊦